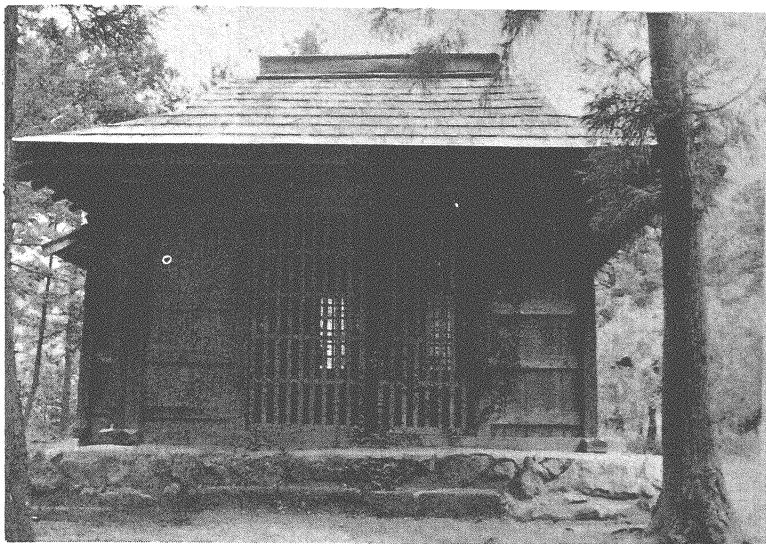


# 宝地区 其の一

神社名 春日日本社  
鎮座地 都留市高畑  
祭神 日本武尊



天兒屋根命  
諏訪明神  
日本武尊は景行  
天皇の皇子で  
いくさの神であ  
る。  
天兒屋根命は、  
天の岩戸開きの  
ときに出てこら  
れる神で、占い  
や祭りの神であ  
る。  
諏訪明神は、建  
御名方神をお祀  
りしてある。

## 例祭

例祭日は九月十五日である。

## 神事用具

神楽、神輿等保存。

## 由緒

不詳、大幡の春日神社の本宮（もとみや）である。

## 御神体

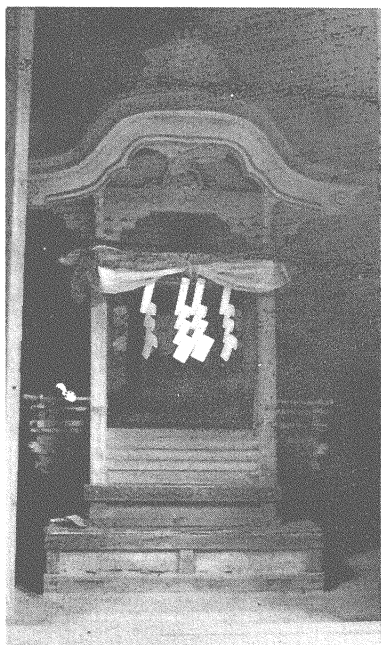
丸石二基、6cm×14cm大のもの。

## 社殿

本殿 檜皮葺流造り。

本殿両屋切妻トタン葺 一間社。

拝殿 入母屋トタン葺 方二間。



本殿

## 例祭

例祭日は、春四  
十五日、秋十月  
十五日の二回行  
なわれている。

## 由緒

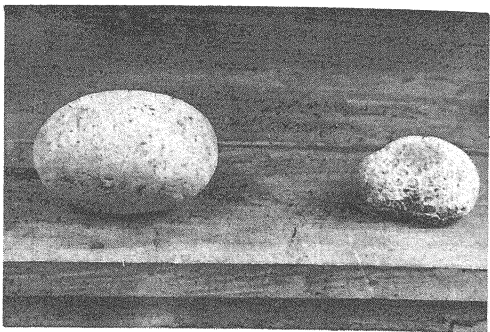
機織の守り神と  
て知られてい  
るこの神社には  
次のような伝説  
がある。太古天  
より一旒の大き  
な幡が舞下り大  
樹の枝に懸り、  
村の人々相談の



結果ここに祠を建てこの幡を祀ることにした。当時はこの地を湯  
津岩村と呼んでいたが、このときからこの地を大幡と称し、この  
地方機織盛んになったと伝えられている。

## 甲斐国志に

一「大幡社」 丸の腰にあり、とある。



御神体

神社名 機神社  
鎮座地 都留市大幡機の前四九四〇番地  
祭神 天栲幡姫命

栲幡は栲の木で織った織物で、機織が上手な神として機業  
者などの守神とされている。

別に、万幡千々姫とも申し上げ、更に一書には大宮姫命と  
称し、天兒屋根命の妻神であると伝えられている。

社殿

南鶴神社誌に

「境内六百六十三坪、神明造檜皮葺 三尺〓二尺の本殿、草葺の三間〓三間半の拝殿などがある。」とある。

舞殿は入母屋トタン葺で五間〓四間で、舞殿中央は本殿に通ずる土間となっており、板敷の舞殿は一棟中にありながら左右に分れてる。

郡内には、織物の神さまはこゝ一社しかなく、機械織のなかった時代には、織女の信仰を集め、遠いところから参詣する者が多く、自分の織物の技の上達を願ったものである。

上夏狩地区に、その分社が奉斎され今もお春の例祭が行なわれ、地域の人々の信仰を集めている。

当時の織姫が早く一人前の織女になるようにと、心をこめて唄った歌がある。

1、拝みあげます 機神さまに

三日に一疋 織れますように

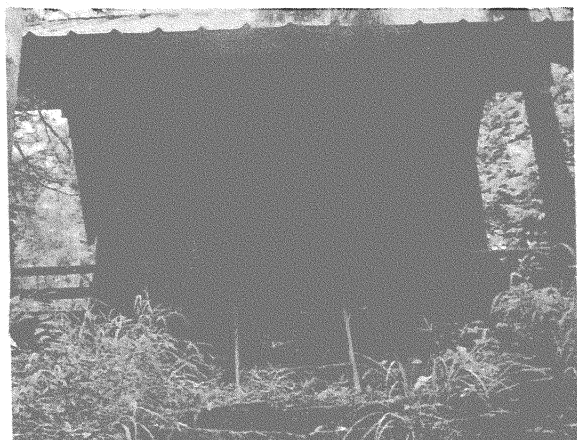
2、歌はよいけど お話しやおよし

話しや仕事の 邪魔になる

3、ちよいと拝見 主さんのお宅

いつか我家に なるのだろう。

賑やかだった機神さまも、時代の遷り変りによって、今はお詣りする人も少なくなかったようである。



機神社本殿

神社名 春日神社

鎮座地 都留市大幡渡場三、七八三番地

祭神 日本武尊

天兒屋根命

諏訪明神

高畑春日本社の前宮である。

例祭 九月十五日

神事用具

神楽保存

由緒

昔は、建御名方命。

天兒屋根命、武

甕榊命の三人の

神様を祀ってあ

って、その名を

諏訪明神とい

神社のある森を

諏訪の森と言っ

ていた。

ところが、日本

武尊が日本平定

の征伐の際、大

社殿

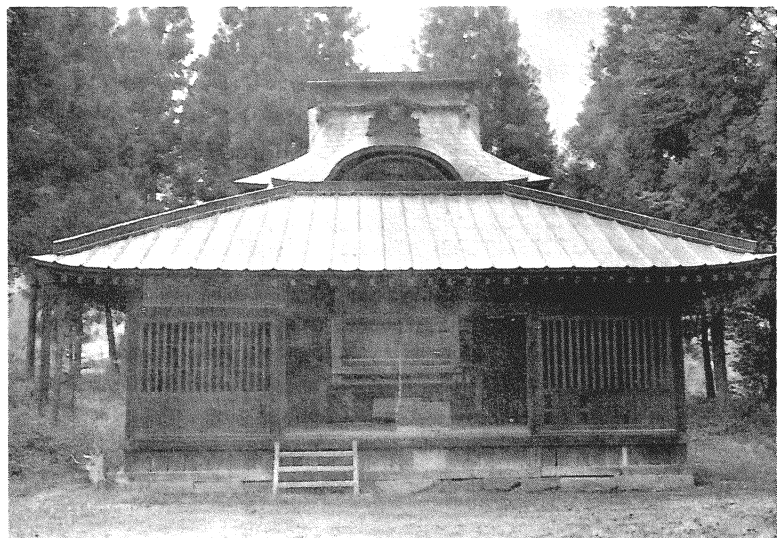
本殿 銅板葺 二間〓二間

拝殿 銅板葺 二間〓四間

舞殿 まわり舞台装置がしてあり、かつての大幡歌無伎の盛んで

あった当時の面影を留めている。

鳥居 木造一基。



幡村の東方にあった大石の上に坐り(石は三丈四方、高四丈といわれている)、四方を御覧になられたので、ここに祠をつくり日本武尊を奉斎した。この山を本社丸と称している。

正治三年(建仁元年一二〇一年)八月一日の明け方、この祠のある場所から諏訪の森に白雲がたなびいて、現在の神社のあるとこ

ろに日本武尊のお姿がうかばれたので、本社丸から現在の場所に日本武尊をおまつりし、神社の名まえも諏訪明神から、船形春日大明神というようにかえられ、元文二年(一七三八年)に諏訪明神を先の神様とし、同じ社殿の中に祀るようになった。

明治五年村社となる。

昭和二十年五月十七日神饌幣帛供進指定神社となる。

山梨県市郡村誌に

〔春日社〕 村社々地東西拾六間三尺四寸南北拾七間三尺六寸面積式百七拾九坪本村大幡組ニアリ云。とある。

甲斐国志には

一〔船形春日明神〕 大幡村本村氏神ナリ社地見捨地社領除地老反式

拾四歩例祭六月十五日、八月三日、十月中酉日神主甘利河内。此

社ヨリ西戌ノ方一里中山ノ半腹ニ本社丸ト云地アリ相伝此社古其

地ヨリ遷来ル所ナリト云フ小祠アリ奥院ト号ス。とある。

神灯 二対。

境内社

大神社 木造トタン葺 方二間社

権現社

道祖神 三体。

衣更えの神事について

本殿の床下に御神体（自然石による大きな丸石）が祀られている。  
この御神体には白い布が巻かれている。六十年に一回、御神体の衣（白い布）を取り替える、いわゆる衣更えの神事が行なわれるのである。その衣は白無地の布（さらし）で、それにはその時の祭り当番の名前が書か  
ていることである。  
まことに珍らしく、厳かな神事であると思われる。